

伊勢本街道



風景街道「伊勢街道」連絡協議会
歴史街道推進協議会

伊勢本街道

ISENON

歴史街道とは



歴史街道とは、日本の文化を体感できるルートです。
歴史街道には、伊勢から飛鳥、奈良、京都、大阪、神戸を時代の流れにそって結ぶ約300キロのメインルートと、世界文化遺産などの貴重な歴史文化資源や豊かな自然を地域のテーマにそって結ぶ3つのネットワークがあります。

発行：歴史街道推進協議会

編集：紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会

協力：文化庁 地域文化創生本部

東奈良名張ツーリズム・マーケティング



白山神社



行悦道標



鞍取峠



太神宮燈籠

伊勢本街道

伊勢本街道の概要

大和と伊勢を結ぶ街道は、北から初瀬街道（あを越え伊勢街道）、伊勢本街道、和歌山街道（高見越え伊勢街道）の3ルートが知られている。街道の名は目的地や大きな峠を頭に付けて呼ぶことが多く、同じ道でも大和から「あを越え道」は伊勢からは「初瀬街道」と呼ばれる。その中でも神宮の遷座にかかわる倭姫命の巡幸の道とされた伊勢本街道だけは、どちらからも「本街道」と呼ばれ「神の御心に叶う道」として参宮者に利用された。

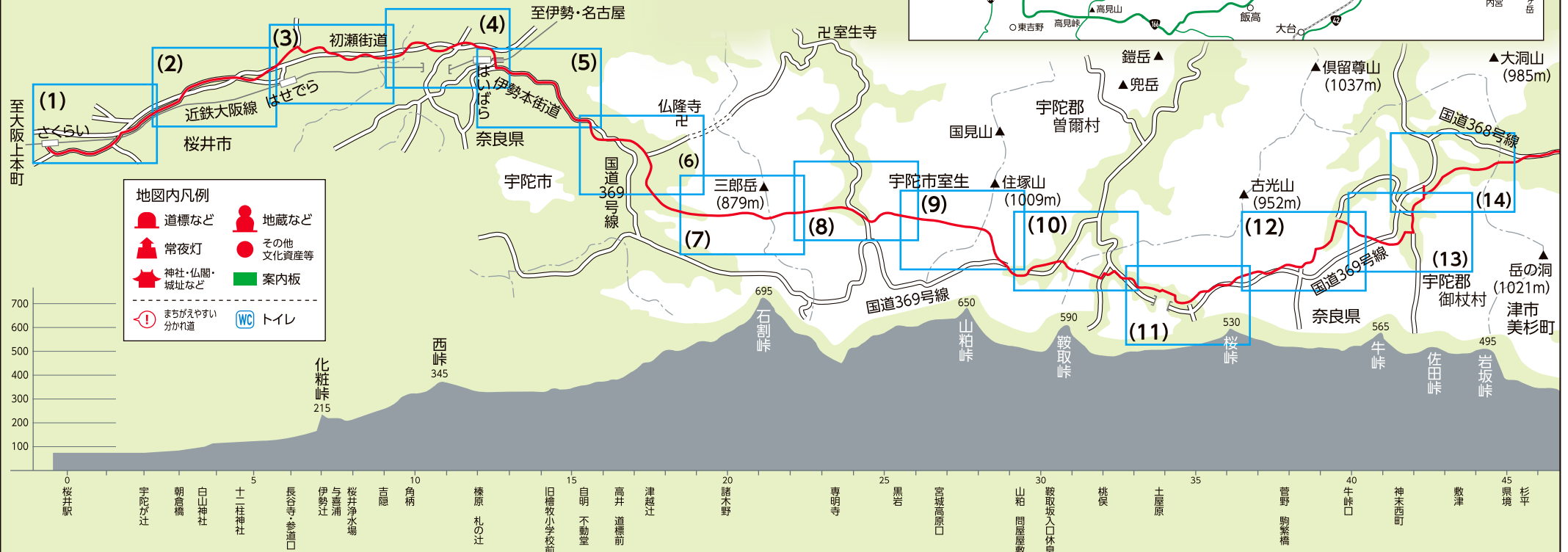
南北朝の頃に上多気（津市美杉町）に本拠を移した北畠氏によって、奈良や吉野への道として整備された「本街道」は多くの人々が行き交うようになるが、江戸時代になると津の藤堂藩が整備を進めた初瀬街道のほうが比較的平坦なことから利用する参宮者が増加。最短距離で伊勢をめざす「本街道」は、峠越えや川渡りなどの難所も多いため、次第に生活道路へと姿を変えていくこととなった。この街道沿いには、江戸中期の六十六部行

者の「菅野村行悦」が建てた回国供養塔が桜井市初瀬から三重県多気町までの間に9基確認されている。それらには大和初瀬からと伊勢宮川までの距離が彫られ、旅人にとっては現在位置を知ることができ、大変便利なものであったと考えられる。

鉄道の開通によって徒歩での参宮者が皆無となり、街道沿いの宿場町を結ぶ新道建設の際には険しい峠などの難所を迂回するルートがとられたため、今も「本

街道」には峠を越える古道が各所に残り、行政や地域の人々によって案内板や休憩所の設置や草刈りなどを行って、古道を維持する取り組みが続けられている。また、大阪や奈良から歩いて伊勢に向かう人々からは、往時の面影を色濃く残す街道として注目を集めるが、公共交通機関の減便や廃止のため、日帰りウォークでは事前にバス時刻などを調べておく必要がある。

神の御心に叶うとされた 難所越えの参宮の道 伊勢本街道



地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがえやすい分かれ道
- 地蔵など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ

◆目次

伊勢本街道の概要	1	(7) 石割峠	16
伊勢本街道のルート	2	(8) 上田口	18
(1) 桜井	4	(9) 山粕峠	20
(2) 朝倉	6	(10) 鞍取峠	22
(3) 初瀬	8	(11) 土屋原	24
(4) 西峠	10	(12) 菅野	26
(5) 札の辻	12	(13) 神末	28
(6) 高井	14	(14) 敷津	30

歩く速さで見えてくるものがある。
歩くからこそ出会うものがある。
いにしへの旅人の速さで、視点で
歴史の道をたどってみよう。

(1)桜井

(桜井市桜井～慈恩寺)

かつて古代ヤマト王権の中心地であった桜井からは多くの古道が四方に伸びている。四季折々の自然に誘われ、道端に残る歴史を訪ねてみよう。
詳しくは桜井観光まちづくり課
桜井観光案内所 TEL 0744-44-2377へ

この部分は
次ページを
ご覧ください

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - まちがえやすい分かれ道
 - 地蔵など
 - その他文化資産等
 - 案内板
 - トイレ



1 桜井駅南口
近鉄改札口をぬけて階段を上がりJR改札前を通る



上つ道や山の辺の道
奈良盆地の南北に伸びる3本の古代の官道うち東側の道。平行して東の山裾には山の辺の道がある(検原神社)



3 保田與重郎生誕地
戦前から多くの著作を残した日本の文芸評論家の家



万葉歌碑めぐり
街道北側の山裾の集落をつなぎ平行する道には、所々に万葉歌碑が建てられている(白山神社)



7 常夜燈
竿のないユーモラスな常夜燈



8 慈恩寺の道標
「ひだりよしのかうや道／右ハミわ奈らち」2つに折れている



横大路
『日本書紀』に推古21年(613)「難波より京に至る大道を置く」とあり、葛城市の長尾神社からは竹内街道へと続く(長尾神社)



2 桜井町道路元標
かつては市場もあり、賑わった商店街から多武峯への分岐に建つ



多武峰へ
桜井駅から等彌神社や国宝十一面観音を祀る聖林寺を経て、談山神社までは約8.8km(約5時間)(談山神社)



4 磯城邑傳稱地
紀元二千六百年を記念して建立



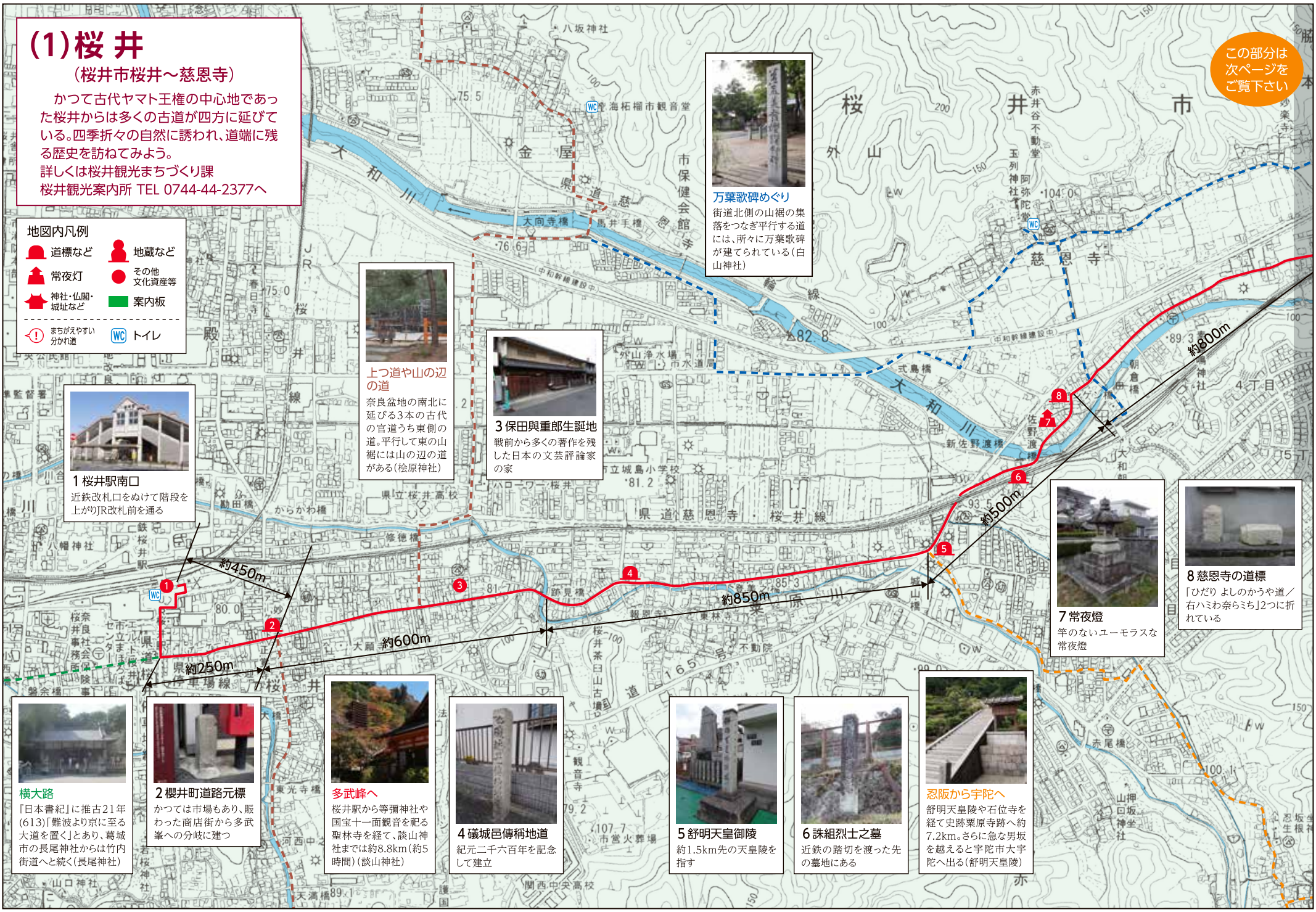
5 舒明天皇御陵
約1.5km先の天皇陵を指す



6 誅組烈士之墓
近鉄の踏切を渡った先の墓地にある



忍阪から宇陀へ
舒明天皇陵や石位寺を経て史跡栗原寺跡へ約7.2km。さらに急な男坂を越えると宇陀市大宇陀へ出る(舒明天皇陵)



(2)朝倉

(桜井市脇本～初瀬)

古代からこの道は東国への重要なルートで神武東征はじめ「記紀」や万葉歌の舞台が沿道の各所に残っている。現在の国道165号は昭和初期まで桜井駅～長谷寺参道間を運行していた「初瀬軽便鉄道」の軌道跡である。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まぢがえやすい分かれ道
- 地藏など
- その他文化遺産等
- 案内板
- トイレ



11 白山神社参道

神社へは西側の案内板に従って信号を渡る。境内には「萬葉集発願讚仰碑」と雄略天皇の第1番歌碑がある

信号のない横断歩道を渡る

白山神社への案内板あり



9 常夜燈

脇本の集落のはずれの道の両側にある



10 朝倉村道路元標

朝倉小学校の校門に至る分岐に建つ



12 流れ地藏

文化8年の大洪水で長谷寺の前から流れてきた地藏。腰からは土に埋もれている



13 十二柱神社

狛犬の台座を4人の力士が支えている



狛峠越えの道

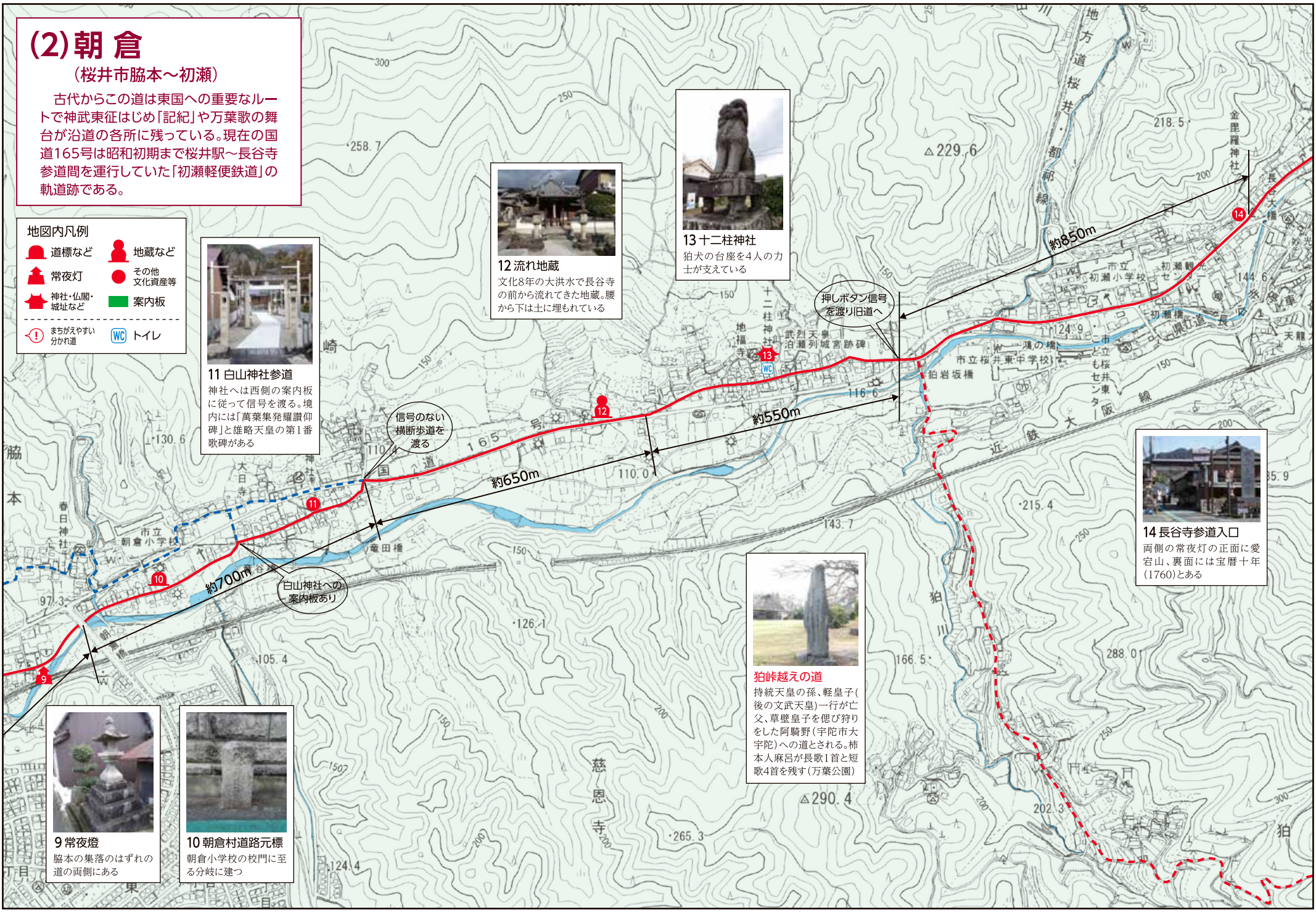
持統天皇の孫、軽皇子(後の文武天皇)一行が亡父、草壁皇子を偲び狩りをした阿騎野(宇陀市大宇陀)への道とされる。柿本人麻呂が長歌1首と短歌4首を残す(万葉公園)

押しボタン信号を渡り旧道へ



14 長谷寺参道入口

両側の常夜灯の正面に愛宕山、裏面には宝暦十年(1760)とある



(3)初瀬

(桜井市初瀬～吉隠)

長谷寺は朱鳥元年(686)創建ともされる真言宗豊山派の総本山で、平安中期には紫式部や清少納言により観音参りが広められた。上化粧坂へは仁王門の横を流れる初瀬川を少し遡った連歌橋を渡り、興喜天満神社前を通る。



22 長谷寺
仁王門から本堂へ続く登廊の石段は399段。四季の花々が境内を彩る



23 興喜天満神社前の道標
鳥居前に移設されたため「ひだりいせ」とあるが、天神橋からは右へ坂道を上る



24 上化粧坂からの眺望
本居宣長が「まるで別世界に来たようだ」と感嘆し、松尾芭蕉も印象に残る峠と記した



26 多羅尾瀧への道標
信号を渡った浄水場のフェンス内にある。多羅尾不動堂を示す



25 庚申辻の道標
上化粧坂と下化粧坂が合する庚申辻に建つ



27 石の覆いを設けた地蔵
約150mの旧道の中程左手にある



19 法起院境内の道標
西国三十三カ所番外札所。道標は山門をくぐった右手にある



20 長谷寺前の道標
桜井市笠の登山荒神を示す



21 行悦道標①
宝物殿前に建つ廻国供養碑で「いせ宮川へ廿一里半」と刻む。元位置は西峠付近か?



18 伊勢辻橋
橋を渡って左へとれば下化粧坂、右折すれば山口神社の横から国道へ出る



17 伊勢辻の道標
三叉路を右に折れると伊勢辻橋で初瀬川を渡る



16 長谷山門口坐神社
門前町途中を右へ朱塗りの太鼓橋を渡り、石段まじりの急な参道を上がる



15 近鉄長谷寺駅
長谷寺へは石段を下り国道を横断して参急橋を渡る。特急、快速急行以外は停車

この部分は前ページをご覧ください

この部分は次ページをご覧ください

獣害防止の柵を通りアゼ道を歩く

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがえやすい分かれ道
- 地蔵など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ

(4)西峠

(桜井市吉隠～宇陀市榛原萩原)

桜井慈恩寺から宇陀市榛原の萩原まで街道は一本しかなく、かつては伊勢参りや長谷詣の多くの旅人が行き交った。墨坂と呼ばれた峠は宇陀市榛原の西に位置するため、今では西峠と呼ばれている。



30 天満神社の太神宮燈籠
吉隠の集落奥の天満神社境内にある文政十三年(1830)銘の太神宮灯籠



28 吉隠の道標
大峯奉納を兼ねた道標。「右いせ」と刻む



29 穂積皇子の万葉歌
元小学校跡に建つ。国道の横断は押しボタン信号から



34 春日宮天皇妃陵
光仁天皇の母(紀椋姫)の陵。夫の春日宮天皇は志貴皇子



31 吉隠の風景
「吉隠」は古い地名で、新墾(よきにいばり)の意か?のどかな棚田風景が広がる



32 御陵への道標
御陵までは急な坂道が約700m続く



33 供養碑と庚申堂
寛文11年(1671)造立「奉施庚申 角柄村」と刻む庚申堂



35 シュウタレ入口の庚申堂
シュウタレは旧道の呼び名。国道から駐車場に沿って右へ入る



37 墨坂伝承地碑
大和国中へ侵攻する神武天皇に対し磯城の皇師が炭火を焚いて防戦したと伝わる



38 新しい伊勢本街道の道標
平成2年のもので、道標の建つ坂道を下る



41 あぶらや
明治10年頃まで営業の元旅籠。萩原の賑わいを本居宣長は「菅笠日記」に記す

葬儀場の駐車場奥の道を上る

横断注意

交差点手前の民家の小路に入る

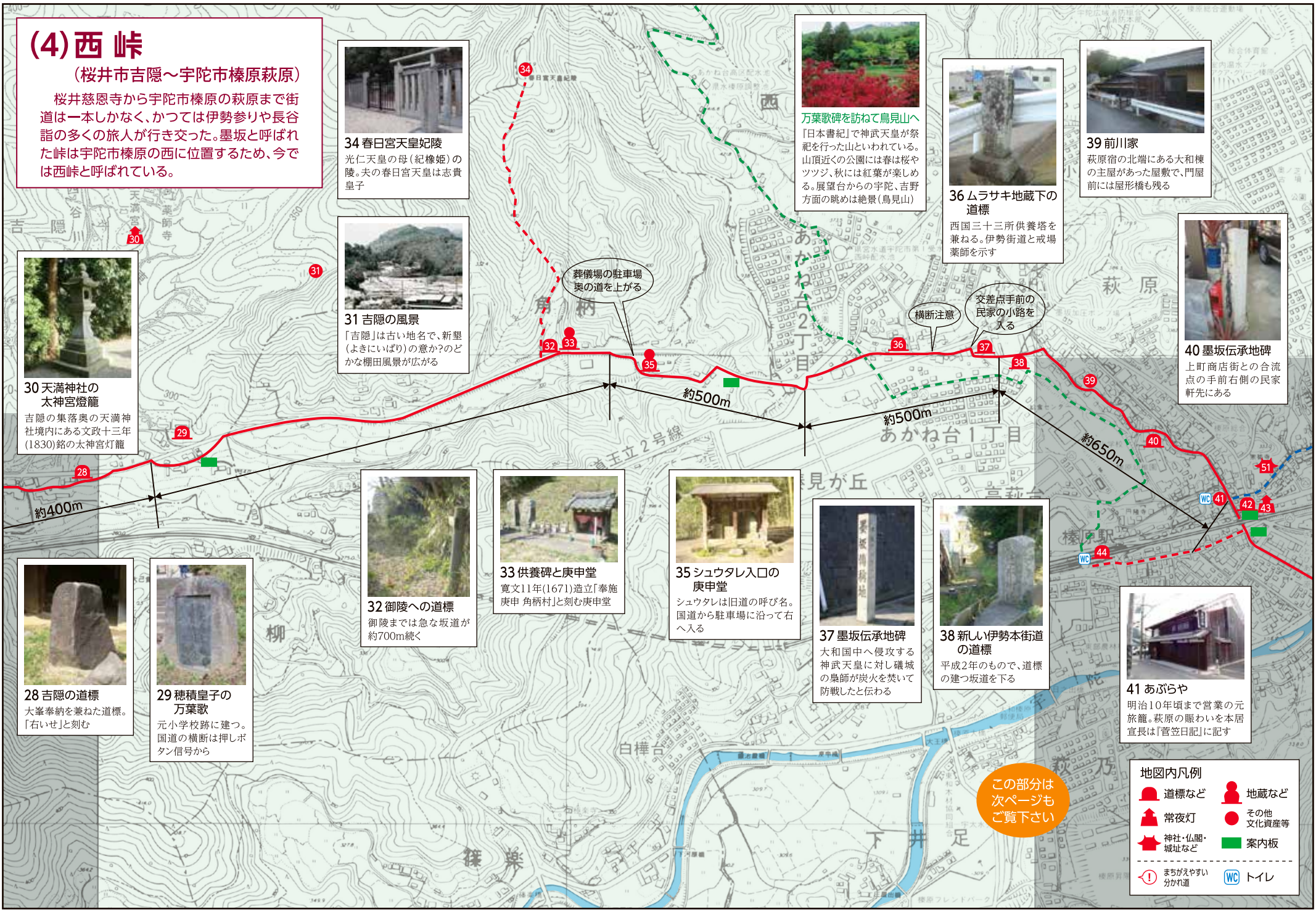
約500m

約500m

約650m

この部分は次ページもご覧下さい

地図内凡例	
	道標など
	常夜灯
	神社・仏閣・城址など
	地蔵など
	その他文化資産等
	案内板
	まちがえやすい分かれ道
	トイレ



(5) 札の辻

(宇陀市榛原萩原～榛原自明)

あを越え伊勢街道(初瀬街道)は江戸時代に津の藤堂藩が整備し、峠が少ないことから多くの参宮者が利用。昭和5年の鉄道開通により道は鉄道の軌道や国道に姿を変えたが、沿道の宿場町には伊勢参りの講看板や常夜灯が残され、今もいにしへの賑わいを伝えている。



51 宗祐寺
融通念仏宗の寺院。重文の木造多聞天立像と仏涅槃図三幅を蔵する



44 榛原駅南口の石標
正面に「鳥見山中靈時跡 北二十丁」右に「肇国聖蹟 墨阪神社 東六丁」と刻む。1丁は109m



42 「札の辻」の角石の道標
伊勢本街道と初瀬街道(あお越え道)の分岐点。高札場のあった札の辻に建つ



43 太神宮灯籠
御室御所(仁和寺)御寄附の銘がある



52 福地の町並み
榛原の伊勢街道で唯一古い町家が続いている



46 桜牧の板碑形道標
県内最古、寛文4年(1664)の供養碑兼道標。読みづらいが「右いせみち 左やまみち」を指す



49 不動堂
手前に「大師爪書の不動尊」と伝わる磨崖仏があり、参宮者を接待する茶所として使われていた



50 宇陀川の桜並木
榛原駅の南から上流にむけて続く。万葉歌にちなみ「鎮路の桜」と呼ばれている



45 墨阪神社
崇神天皇が疫病を鎮めるため赤盾8枚、赤矛8竿をもって墨坂神を祀ったと伝える。文安6年(1449)天の森から現在地に遷座する



47 御井神社
主神の御井神は食物をつかさどる。本殿の裏山には県指定天然記念物のツルマンリョウが自生する



48 初生寺への道標
「新西国十二番はしやうじ道」とあるが、国道改修で移設のもので、初生寺へは通じない

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがえやすい分かれ道
- 地蔵など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ

この部分は次ページもご覧下さい

(6) 高井

(宇陀市榛原高井～榛原赤埴甲)

宮田家前を直進すると約2Kmで室生寺の南門といわれる仏隆寺へ。4月中旬には樹齢900年を越えるともいわれる「千年桜」が花をつけ、秋には彼岸花が彩りを加える。ここから唐戸峠を越えて約5.7Kmで室生寺に至る。詳しくは宇陀市観光課TEL 0745-82-2457へ

地図内凡例

	道標など		地蔵など
	常夜灯		その他文化資産等
	神社・仏閣・城址など		案内板
	まちがえやすい分かれ道		トイレ



53 新しい伊勢本街道の道標
国道から坂を上がり民家前を直進して杉林に入る。擁壁の直上を通るので注意が必要



56 新しい伊勢本街道の道標
右の坂を上がり宮田家の前を通るのが旧道



57 宮田家
玄関の上に「女人高野室生山之図」の絵馬額を掲げる



58 松本家の樞の木
元治元年(1864)まで旅籠を営んでいた松本家の石垣から突き出ており、幹に注連縄が巻かれている



59 松本家
天明元年(1781)の建物で「御官松本重蔵」の看板が残る。「官」の字に人偏が無いのは牛馬も泊める意



54 三基の道標
右側は仏隆寺、中央は室生寺、左側はいせみちと室生寺を指す。左の道標は100m先の分岐から移設



55 太神宮燈籠
慶応二年癸卯十月建立「御代官 武運長久」「五穀成就」と刻む



60 松本家の道標
「右伊勢道 左室生山弘法大師 是ヨリ五十丁余」天明元年(1781)のもの。1里は36丁



61 高井の千本杉
井戸の周りに植えられた杉が根元で癒着したもので県指定の天然記念物。根周りは35mを超える



62 津越家
旧旅籠の大津屋とい立派な大和棟の旧家



八滝から平井大師山へ
壬申の乱の際、大海人皇子(のちの天武天皇)を助け軍功をたてた文祿麻呂の墳墓が八滝集落の奥にある。高井バス停からは約4Kmで、手前の五社神社には江戸末期の石工、丹波佐吉の狛犬があり、ここから四国八十八か所霊場の石仏群がある平井大師山までは徒歩約1時間



63 万葉歌碑
やまはた うた まはに 倭の宇陀の真赤土のさ 丹着かばそこもか人の 吾を言なさむ



64 三叉路の道標
津越辻にあり「壬 享保七年(1722)右いせみち 寅二月廿一日」と刻む



65 行悦道標②
「はせよりこれへ三里 回國供養 是より 宮川え十八里半」と自然石に刻む



65 行悦道標②
「はせよりこれへ三里 回國供養 是より 宮川え十八里半」と自然石に刻む

細い方の道往直進

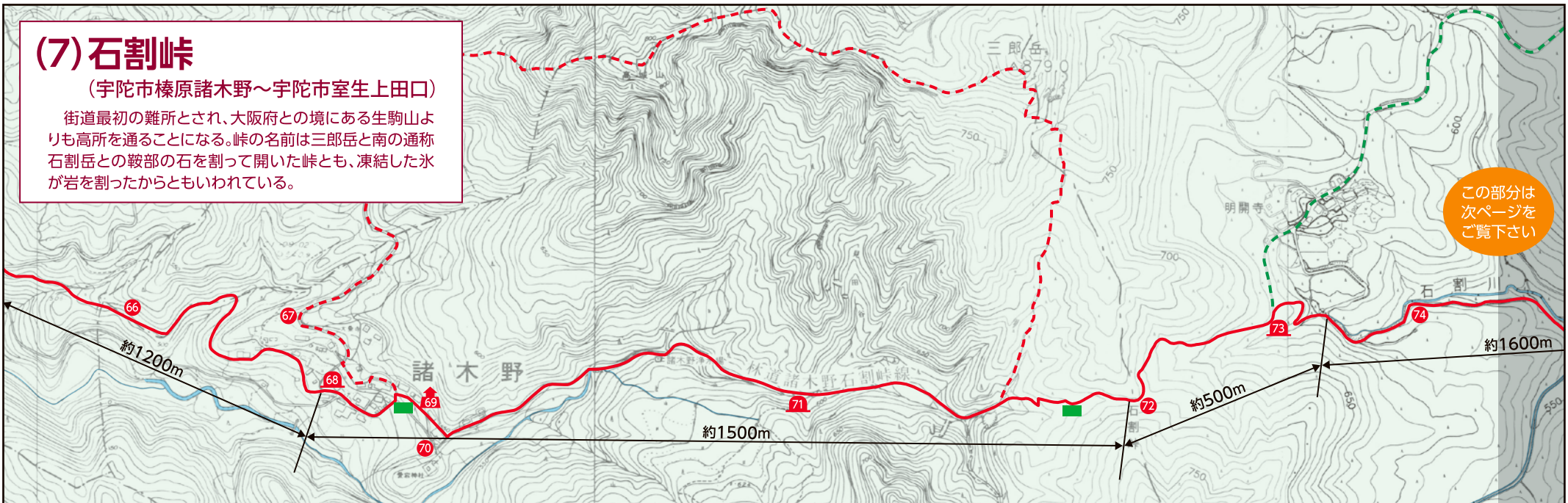
この部分は次ページをご覧下さい

(7) 石割峠

(宇陀市榛原諸木野～宇陀市室生上田口)

街道最初の難所とされ、大阪府との境にある生駒山よりも高所を通ることになる。峠の名前は三郎岳と南の通称石割岳との鞍部の石を割って開いた峠とも、凍結した氷が岩を割ったからともいわれている。

この部分は
次ページを
ご覧下さい



66 諸木野関所跡
街道を歩く人から通行料を徴収する目的で15世紀中頃に街道の各所に関所が設けられた



67 諸木野弥三郎の墓
弥三郎は、弓の名将で、国司の命により宇陀や大和の武将の動きを大河内城へ報告する役目を担っていた



68 諸木野の道標
近世にはここに多くの旅籠があった。「右いせ本街道 左仏隆寺」平成2年建立



69 太神宮燈籠
明治22年(1889)の建立。この集落から曾爾村山柏まで約10.2Kmトイレなし



71 宇陀ヶ辻の道標
内牧から平井を経て菟田野(古市場)や大字陀(宇陀松山)へ通じる



72 石割峠
伊勢本街道の最高地点 695mを越える



73 笹原の道標
「右いせ 左原山道」と刻む宝暦3年建立。右へ細い道を下る



原山から室生寺へ
笹原の道標を直進すると原山の集落を経て県道を川沿いに下ると約7Kmで室生寺へ(室生寺 五重塔)



70 愛宕神社前からの眺め
振り返れば眼下に諸木野集落が広がる



三郎岳・高城山へ
三郎岳(878m)は宇陀市の最高峰で山頂は360度の展望が開ける。高城岳(810m)を経て赤埴方面へ下る宇陀市のハイキングマップあり。ちなみに太郎岳は俱留尊山(1038m)で次郎岳は住塚山(1009m)(石割峠手前の道標)



74 姫隠岩
仁徳天皇に追われた連総別王が恋人の女鳥王を岩陰に隠して追手から逃れたという伝説が残る

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがえやすい分かれ道
- 地藏など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ

(8) 上田口

(宇陀市室生上田口～室生黒岩)

榛原駅から一日の行程は曾爾村山粕までが一般的だが、シャクナゲや紅葉の季節には、ここから室生寺や弁財天を訪ねるのはいかがだろうか。事前に帰りのバス時刻をチェックして、ひと味違う街道歩きを楽しもう。



上田口から室生寺へ

専明寺下の道を通り県道を北へ徒歩約2時間で室生寺へ。途中に廃校を活用した「ふるさと元気村」がある(ふるさと元気村)



79 黒岩上り口

県道から左へ崖沿いの道を上がる



75 オトバヤの滝

「音速の滝」だろうか? 小さな清流が注いでいる



76 行悦道標③

平成20年春に民家の石垣の中から発見される「菅の村はせよりは江四り廻国供養 是より宮川へ十七里と半 行悦」



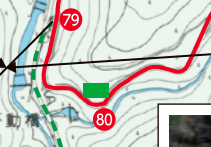
77 2軒の茅葺き民家

「室生村史」には上田口に12軒の屋号が見られ、これらは「よしだや」「庄屋」となっている



78 専明寺

山門や鐘樓を備える浄土真宗大谷派の寺院。街道は境内の中を通っている



80 不動滝

近年の樹木の伐採で街道から見えるようになった



81 黒岩の道標

集落の入口にある



82 明円寺

地名の由来となった黒い岩が本堂に向かって左手前にある



弁財天シャクナゲの丘

県道を南へると約2Kmで国道369号へ。すぐに左の旧国道を2Kmほど行くとトンネルの上に弁財天シャクナゲの丘がある。見頃は5月上旬

地図内凡例









- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- ましがえやすい分かれ道
- 地蔵など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ

この部分は次ページをご覧ください

(9) 山粕峠

(宇陀市室生黒岩～宇陀郡曽爾村山粕)

黒岩の集落を過ぎると、山間とは思われないほどの平地が広がっている。行悦道標のある分岐を左にとると宮城集落を経て曽爾村の屏風岩へ。山桜や紅葉に彩られる屏風岩の麓には「記紀」の悲恋物語に登場する仁徳天皇の弟、速総別王(はやぶさわけのおおきみ)を祀る速総別神社がある

地図内凡例	
	道標など
	常夜灯
	神社・仏閣・城址など
	まちがえやすい分かれ道
	地蔵など
	その他文化資産等
	案内板
	トイレ



86 林道との交差点

砂防ダム工事により街道は失われている。現在は林道を左に少し上ってから谷治いの道を下る



87 佐田の宮跡

明治43年に山粕の春日神社へ合祀された大己貴命を祀る佐田神社の跡



83 行悦道標④

山粕峠の分岐にある。「はせよりは遠五り 菅野村 回国供養 行悦 是より宮川へ十六り半」



84 六字名号碑

植林の中に街道とは逆向きに建つ



85 山粕峠

平成28年度からの発掘調査で茶屋跡が見つかった。



88 SONI GATE

公民館を改修した一棟貸しの宿泊施設。5～16人で利用可能で食事は各自で準備する。詳しくはTEL 0745-88-9490まで



89 問屋敷跡の碑

「問屋」の屋号で旅籠を営んでいた子孫が建てたもの。書家の榊莫山の筆による



90 めだか街道

街道に沿った家々が水槽でメダカを飼育。近年TVで紹介され訪れるマニアが多い

この部分は
次ページを
ご覧下さい

(10) 鞍取峠

(宇陀郡曾爾村山粕～御杖村桃俣)

「お伊勢参りして こわいとどこか かい坂ひつ坂くらとり坂 つるの渡しか宮川か」と謡われた本街道の難所のひとつ。飼坂峠は津市美杉町の奥津と上多気の間、櫃坂は上多気と松阪市飯南町の仁柿の間にある。山間部をめぐる次は川渡りが難所になる。

掛～名張(三重交通バス)

香落溪をへて近鉄名張駅へバスの便がある。問合せは TEL0595-66-3715(伊賀営業所)

掛～榛原(奈良交通バス)

近鉄榛原駅へのバスは日に4往復程度。利用は事前に発車時刻を確認のこと TEL 0742-20-3100



92 鞍取峠

本街道の難所のひとつで馬の鞍を下ろして一息ついたことから名づけられたともいわれている



93 浄空欣了法師塔

飢饉の際に献身的に施しをした僧を称えて建立された



曾爾高原

俱留尊山の中腹に広がる湿原「お亀池」から山腹にかけて一面のススキの草原が広がっている。詳しくは曾爾村観光協会 TEL0745-94-2106へ(鐵岳)



91 六字名号碑

ここから急坂を500mほど上り高低差120mの鞍取峠を越える



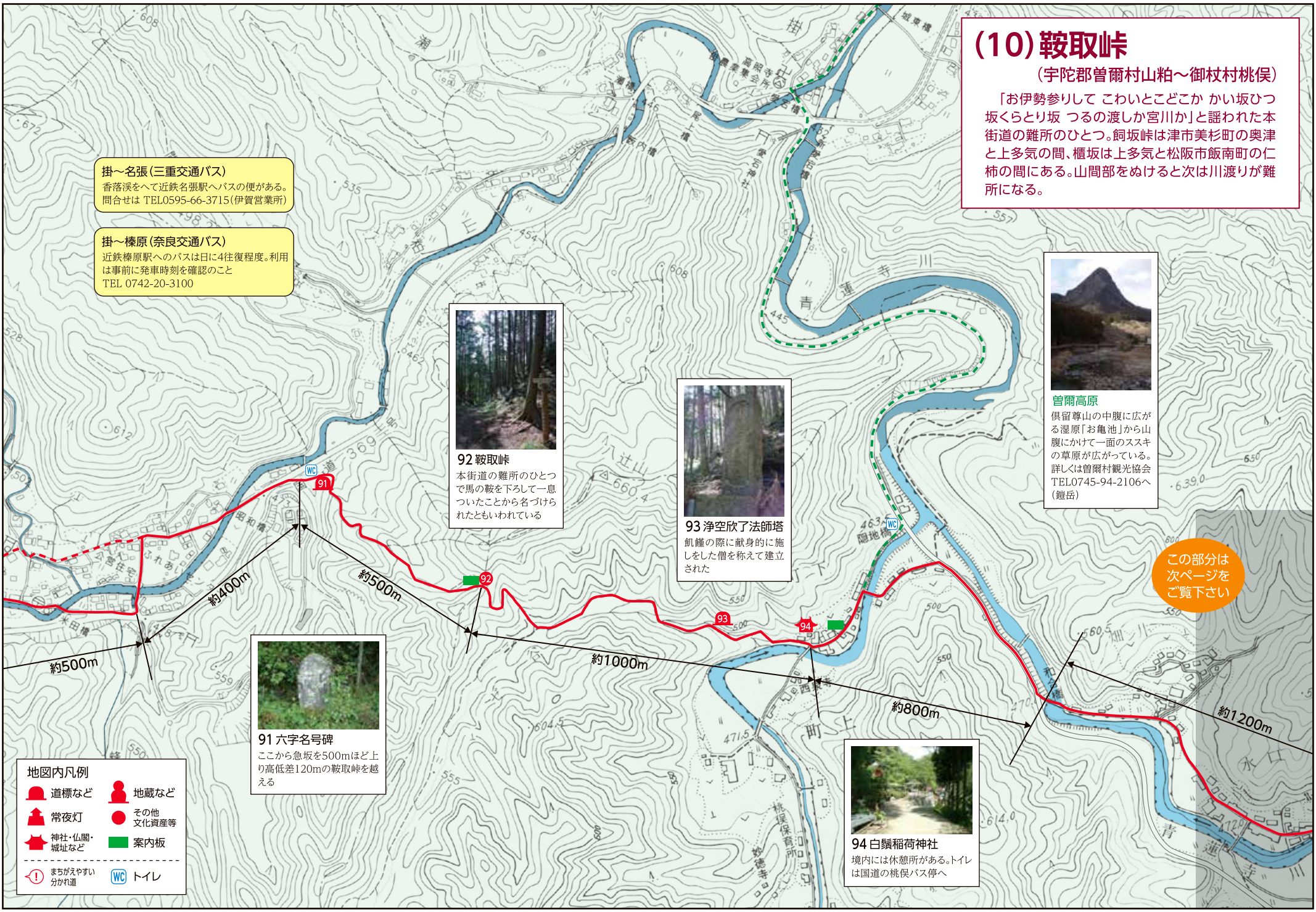
94 白鬚稲荷神社

境内には休憩所がある。トイレは国道の桃俣バス停へ

この部分は次ページをご覧ください

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがえやすい分かれ道
- 地藏など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ



(11) 土屋原

(宇陀郡御杖村土屋原～桜峠)

村名は垂仁天皇の皇女、倭姫命(やまとひめのみこと)が天照大神鎮座の地を求めての旅の途中、宮の候補地として自らの杖を残したという伝承に由来する。多くの伝承から「神の御心に叶う」といわれた街道は約14kmにわたって村内を東西に通っている。



**95 春日神社の
ラッパイチョウ**

普通の葉に混ざり筒状の葉が着生することから名づけられた。見頃は11月中旬



96 堂前の道標

「南かばた 世話人藤助 左いせ 右はせ」南へ川を遡ると講取峠を越え和歌山街道へとつながる



北京越え

古くから利用された生活道路で曾爾へは最短コース



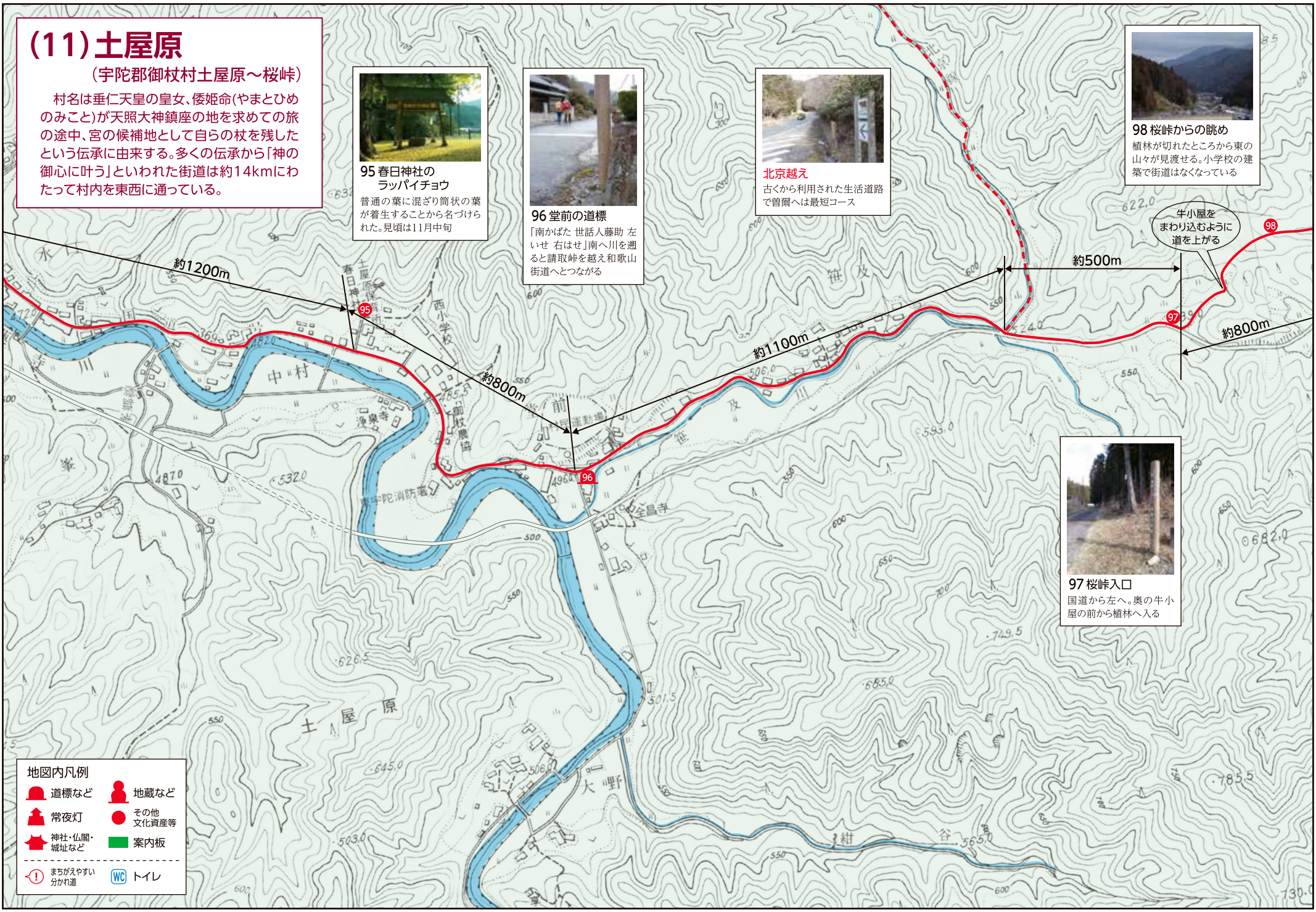
98 桜峠からの眺め
植林が切れたところから東の山々が見渡せる。小学校の建築で街道はなくなっている



97 桜峠入口

国道から左へ。奥の牛小屋の前から植林へ入る

牛小屋をまわり込むように道を上げる



地図内凡例

	道標など		地藏など
	常夜灯		その他文化資産等
	神社・仏閣・城址など		案内板
	まちがえやすい分かれ道		トイレ

(12)菅野

(宇陀郡御杖村菅野～牛峠)

江戸中期に菅野村の六十六部行者、行悦は本街道沿いに9基の廻国供養塔を残している。それらには、大和の初瀬と伊勢宮川までの距離が示され、旅人にとって大変便利なものであったと考えられ、今では愛着を込めて「行悦道標」と呼ばれている。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- まちがえやすい分かれ道
- 地藏など
- その他文化資産等
- 案内板
- トイレ



99 御杖小学校
ドームで覆われた円形校舎で中央のアリーナを囲むように教室が配置されている



100 駒繫橋道標・太神宮燈籠
「左いせみち 右はせみち」とあり灯籠には天保3年(1832)と刻む。倭姫命の伝承が残る



101 安能寺
県指定文化財の茅葺きの鐘楼門の傍には樹高10mのエドヒガン桜がある



102 道標⑥
「宮川へ十五(以下土中) 右いせ 左はせ」行悦のものかは不明



103 みつえ体験交流館
元小学校の木造校舎を活用した施設。101mの廊下では毎年雑巾掛け競争が開かれている



106 牛峠手前の道標
県道改修時に建てられた。旧道は右側の土手道を進み渡河していた



107 磨崖六字名号碑
大岩には名号のほかに貞享3年(1686)の紀年と蓮台が彫られている

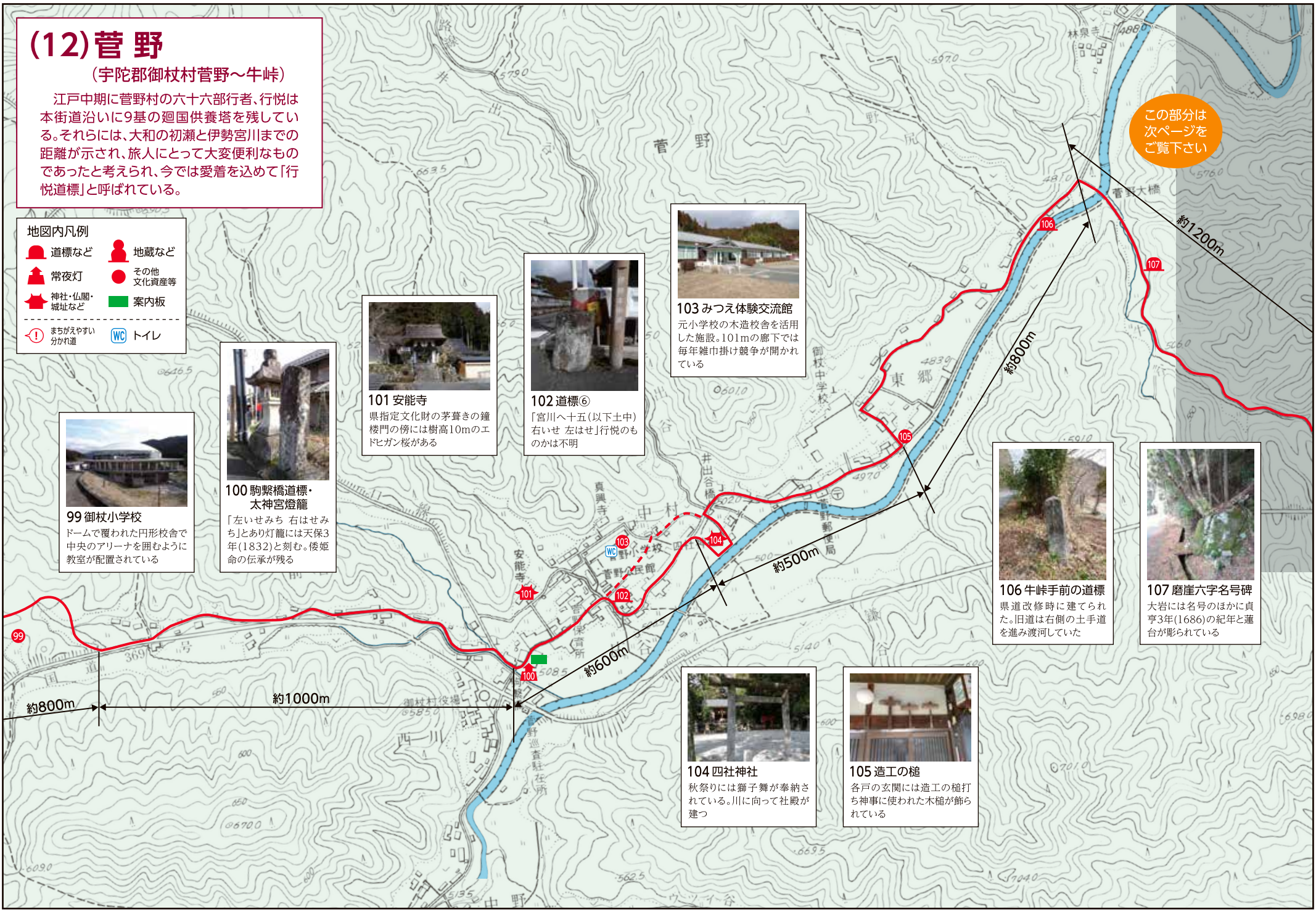


104 四社神社
秋祭りには獅子舞が奉納されている。川に向かって社殿が建つ



105 造工の榼
各戸の玄関には造工の榼打ち神事に使われた木榼が飾られている

この部分は次ページをご覧ください











(13)神末

(宇陀郡御杖村神末～佐田峠)

御杖神社の棟札には「伊賀之国名張上津江之御宮造宮」と書かれたものがあり、中世から近世初めまでは名張郡に属し、川の上流部であったため上津江と呼ばれていたことが判る。今も道の駅からは近鉄名張駅まで三重交通バスが走っている。

地図内凡例

-  道標など
-  常夜灯
-  神社・仏閣・城址など
-  まちがえやすい分かれ道
-  地蔵など
-  その他文化資産等
-  案内板
-  トイレ



114 新しい伊勢街道の道標
大洞山を望む三叉路に建つ



113 佐田峠の行悦⑦
「はせより尾迄九里 尾より宮川迄十二里廿一丁 為六十六部供養願主 行悦」

この部分は次ページをご覧ください



110 西町の太神宮燈籠
火袋台の四方に松竹梅と菊紋がある。文政9年(1826)の建立



108 牛峠下り
国道を渡り休憩所から手前の細い道を下る



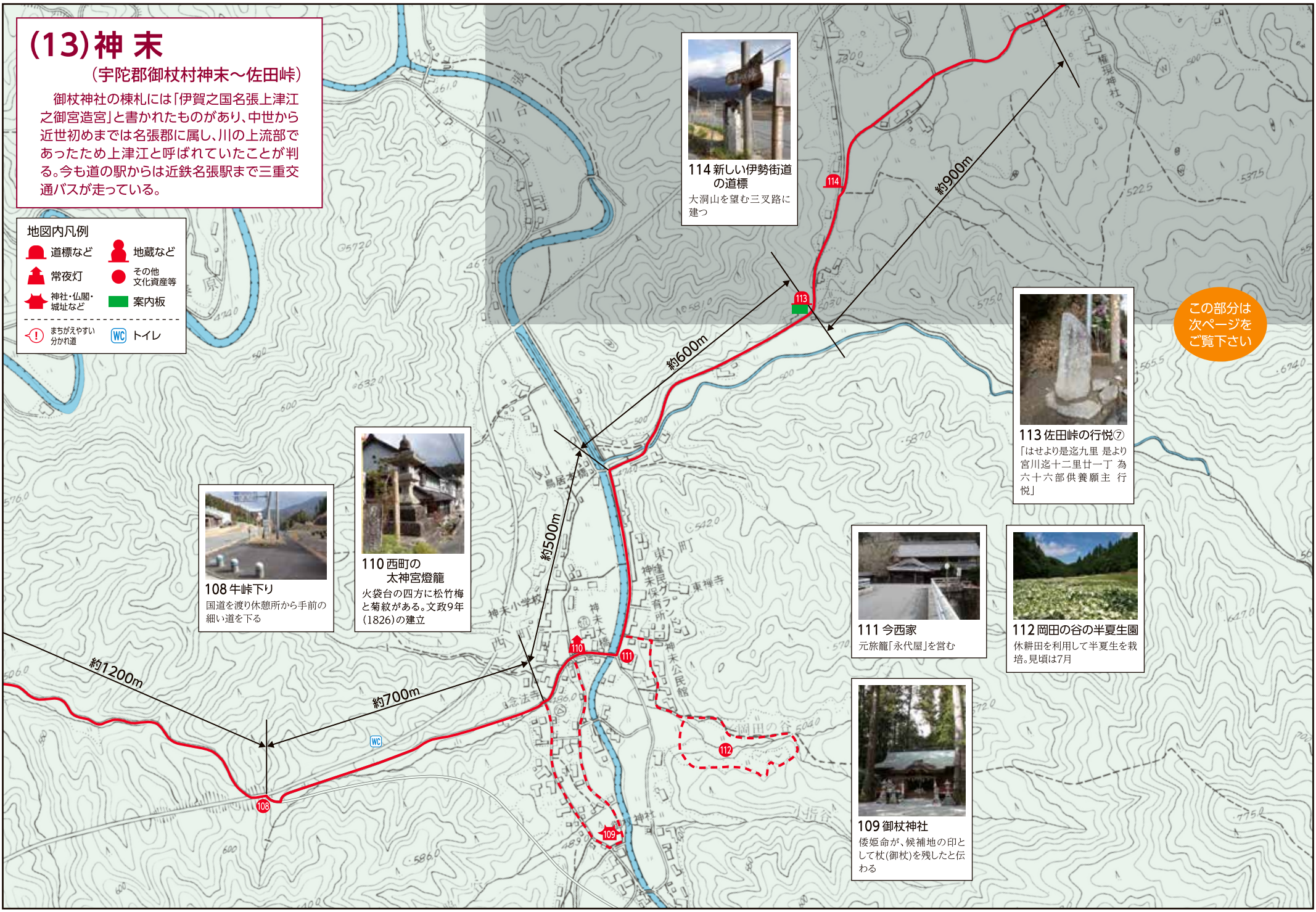
111 今西家
元旅館「永代屋」を営む



112 岡田の谷の半夏生園
休耕田を利用して半夏生を栽培。見頃は7月



109 御杖神社
倭姫命が、候補地の印として杖(御杖)を残したと伝わる



(14) 敷津

(宇陀郡御杖村神末～岩坂峠)

この地域の伝承を集めた「敷津の七不思議」には①子もうけ石②月見岩③夫婦岩④倭姫命の手洗い井戸⑤弘法の井戸⑥金壺石⑦姫石明神がある。詳しくは御杖村役場 TEL 0745-95-2001へ。ボランティアガイドの会も組織されている。



123 道の駅
「伊勢本街道 御杖」
街道市場みつえ、みつえ温泉「姫石の湯」、レストラン「山桜」等を併設する。近鉄名張駅へのバスあり



115 菊山家前の太神宮燈籠
旧地名「三本松」の由来となった松の跡に建てられている



117 姫石明神
女性の臀部の形をした巨岩がご神体。安産や縁結びの神として信仰されている



122 杉平の集落
県境を越えて谷を回り込むと民家の門先に出る。



116 丸山公園(桜)
100本あまりの山桜が植えられ古木も多い。トイレあり



118 岩坂峠
ここからは伊勢の雲出川水系となり分水嶺を下る。名前の通り浮石が多く歩きにくい



119 月輪胎藏界 大日如来種子碑
柱に「和州宇多郡神末内小屋村」とある。牛の守護神として信仰されていた

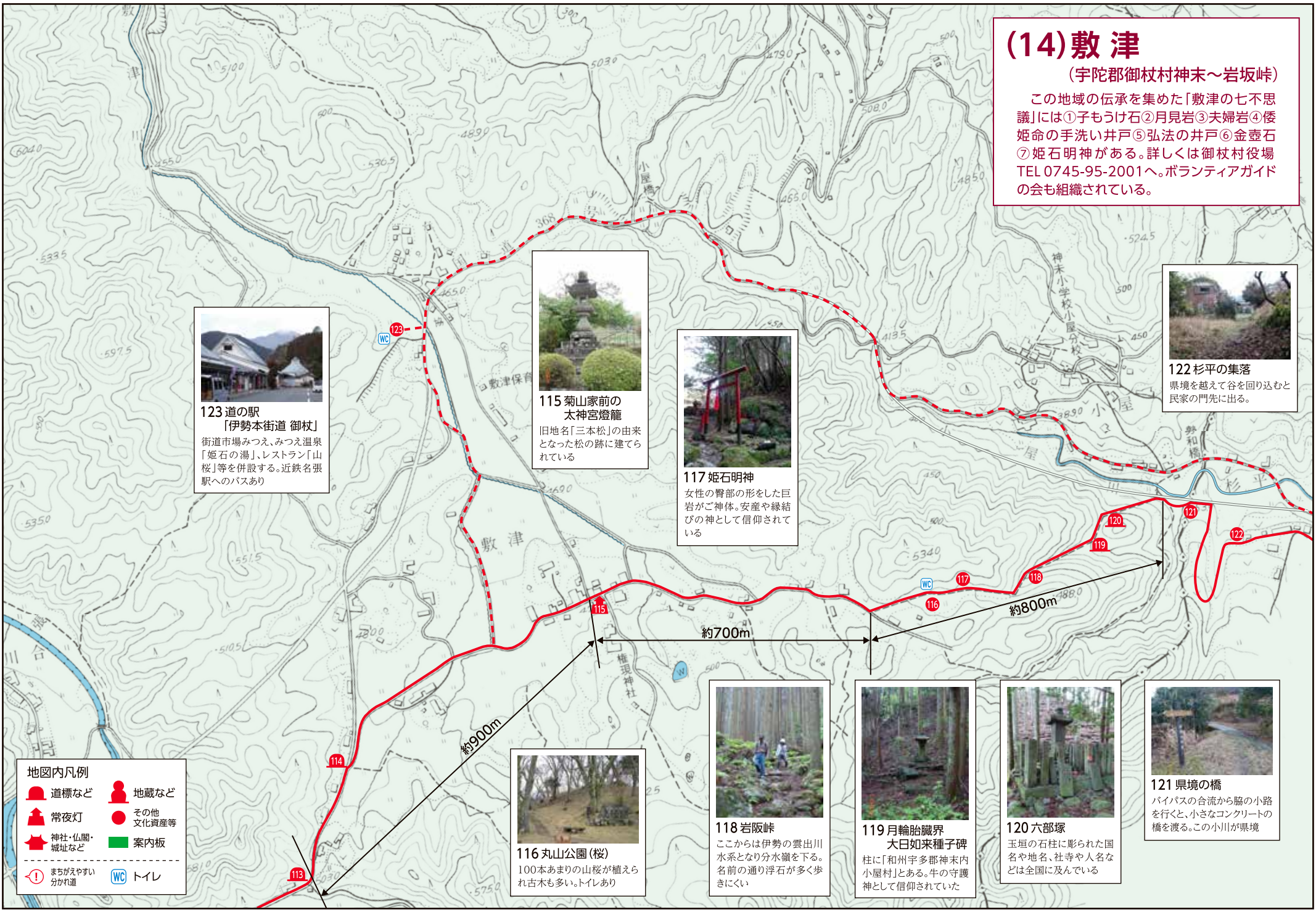


120 六部塚
玉垣の石柱に彫られた国名や地名、社寺や人名などは全国に及んでいる



121 県境の橋
バイパスの合流から脇の小路を行くと、小さなコンクリートの橋を渡る。この小川が県境

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - まちがえやすい分かれ道
 - 地蔵など
 - その他文化資産等
 - 案内板
 - トイレ



伊勢本街道を歩こう

明和9年(1772)3月、松坂の国学者、本居宣長は10日間に渡って吉野や明日香、桜井を巡行する旅をし、紀行文『菅笠日記』(すがかさのにき)を著しました。松坂から行きは「あを越え」と呼ばれた「初瀬街道」を辿り2日目の3月6日に宇陀市榛原の萩原宿で泊まり、帰路にも8日目の宿を萩原の同じ旅籠でとっています。翌日は雨の中を「赤埴越え」と呼ばれていた伊勢本街道を約9里半(38km)歩き国境を越えて石名原(現在の津市美杉町石名原)で宿泊しています。ほぼ本マップの範囲と重なりますので8日目の大神神社から9日目の現代語訳を読んでみましょう。

■三月十二日(第8日) 見瀬、慈明寺、耳成山、大御輪寺、大神神社、初瀬、萩原

《前略》神殿はなく、奥にある木の多く繁った山を拝みました。拝殿はいかめしく立派で、禰宜や巫(かんなぎ)などの人々が多数おり、うちふる鈴の聲も神々しく聞こえます。そこからは元の道に戻らず、初瀬の方へ直接出る細道があり、山の崖伝いを行って金屋というところに出ました。奈良から初瀬へ通う大道です。ここから初瀬川の川辺を歩きました。敷嶋の宮の跡はこのあたりと聞き、とかま山もこの道からは間違いもなく進行方向に高く見えています。《中略》

今夜はもう一度萩原の里で、前に泊まった家に泊まります。

萩原からの帰路は往路とは道をかえ、通ったことのない赤羽根越えという路をとろうと相談して従者の男にそういと、彼は頸をふって、「とんでもない、問題の道は険しい山をいくつも越えるので、中でも飼阪(かいさか)と櫃坂(ひつさか)というひどい坂があり、しかも明日はあめもふりそうで、そうすると道まで悪くなりそうですよ。おまえ様方、どうしたら楽に越えられると考えるのですか。そんな無茶は止めなさい」と言います。それをきくと、ではどうしようと皆気が弱くなって始めの意欲がなくなりました。《後略》

■三月十三日(第9日) 萩原、石割坂、田口、桃俣、菅野、石名原

雨がそぼふる中、夜が明けないうちに、おそろしいという道へ出発しました。この里から右へ分かれて行きます。今朝は少し気分がよくないので、これからの山路の具合がどうかと心配です。ここから室生はごく近いと聞いていますが、雨がひどく降って道も悪く、お参りは中止しました。萩原から最初の石割坂を越える道がけっこう遠く田口まで三里半、田口から山をいくつも越えて桃の俣まで二里、そこから山を越えて菅野まで二里です。多気までさらに四里で、間に大和と伊勢の国境があります。今日、何とか多気まで行きたかったのですが、雨がひどく風も強く、山の上をゆく時はみの笠も吹きちぎられそうで、うかうかすると谷底に転げ落ちそうな強風です。その上、先には難所として有名な飼阪があり、今日は絶対に無理と判断して手前の石名原に宿をとりました。

萩原を出てどこも同じ山の中で、何の見どころもありません。それでも、桜は沢山あって盛りでした。というものの、天気が悪くて気分も辛く、何も心に残らず和歌もまったく詠めないままひたすら歩きました。

往路と違う道を帰りたいという欲求は今の旅人も変わりませんが、雨の伊勢本街道を歩くのはずいぶん決心が必要です。3月12日の夜の会話は戒言という仲間の僧の強気なひとことで決行するようになりました。しかし、翌13日の記述は極端に短く、原文ではたった530字しかありません。あまりに大変で疲労も加わり、メモをとり明確に記憶に残すこともできなかつたと推測します。数百メートルの上り下りの山道の40キロ弱は、たとえ天候がよくても健脚者が難儀して越える距離で、まして記述の天候では雨具と足ごしらえが現代の登山用具でも

大変そうで、宣長一行には遭難の危険さえあったでしょう。飼坂を翌日にまわしたのは賢明でした。それでも宣長はダウンして翌日は駕籠で山越えをし、上多気からは伊勢本街道をはずれ雲出川沿いに下り、松坂へ帰り着きました。

私たちも何度か雨の日に峠越えをした経験があります。特に旧道が多く残る伊勢本街道は足元も悪く大変な思いで歩きました。ここからは基本となるコースと伊勢本街道ならではの注意点を書きとめておきます。コースは令和3年9月現在の公共交通機関の時刻表を利用して日帰りコースをつないで伊勢をめざすこととしました。榛原から山粕、土屋原、菅野、上多気には民宿などがあります。バス路線から大きくはずれる区間は1泊2日でコースをアレンジされるのも良いでしょう。歩く早さの目安を毎時3キロで、余裕を持って時間設定されることを望みます。

モデルコース(=列車/バス/…徒歩 バス時刻等は2021.9.26現在)

1日目 桜井駅 … 長谷寺 … 榛原萩原 … 自明不動堂 - 榛原駅
9:00 11:30~12:30 15:00 16:00 16:36
*国道165号は幅員が狭く交通量も多いため歩行注意。時間表示～は昼食
*萩原からは帰りのバス時刻に気をつけて歩いてください

2日目 榛原駅 - 自明不動堂 … 諸木野 … 上田口 … 山粕東口 - 名張駅
10:35 10:45 12:30~13:00 15:00 16:52 18:13
*バス時刻優先のコースです。榛原駅からタクシーで行くと自由度大
*諸木野～山粕間は大きくバス路線から離れます
*赤埴から山粕東口まで約13km公衆WCがありません

3日目 榛原駅 - 山粕東口 … 桃俣 … 菅野 … 佐田峠 … 敷津 - 名張駅
10:35 11:18 12:20~12:40 14:20 16:30 17:10 18:13
*御杖村内では適当なバスの便なし。道の駅前の敷津バス停にはお早め
*名張駅9:36発のバスを利用すれば20分早く出発できます

4日目 名張駅 - 敷津 … 伊勢奥津 … 上多気 … 比津峠 … 比津駅 = 松阪駅
10:03 11:04 13:00~13:30 15:30 17:00 17:22 18:41
*県境を越えてからは「みえの歴史街道」等のマップをご覧ください
*上多気で街道を離れ北畠神社から川沿いに下り、左折し比津峠を越える

5日目 松阪駅 = 伊勢奥津駅 … トンネル通過 … 道の駅 … 上仁柿 … 柿野 - 松阪駅
9:38 11:02 12:00~12:30 18:08 18:50
*4・5日目はバスを自由に選べません。上多気の宿泊施設は1軒のみ

6日目 松阪駅 - 柿野 … 大石 … 津留の渡 … 相可 … 土羽茶屋 … 外城田駅 = 松阪駅
8:56 9:37 10:30 12:00~12:30 17:29 17:48
*参宮線利用でコースの自由度は広がります。大石～相可間WCなし

7日目 松阪駅 = 外城田駅 … 柳の渡 … 外宮 … 内宮 … 内宮前 - 宇治山田駅
9:24 9:40 13:30~14:30 16:00~17:00 17:30 17:47
*WCは田丸城の周辺にあります。お昼頃に宮川を渡ります

発行: 歴史街道推進協議会 編集: 紀伊半島交流会 伊勢街道分科会
協力: 奈良県・三重県・桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村 発行: 2021.10.01